



Taiwan Academy of Pediatric Dentistry TAPD



國際大會發表獎勵事業 (第34回台灣小兒齒科學會大會) 報告書



Contents

公益社団法人日本小児歯科学会理事長	新谷 誠康	P2
公益社団法人日本小児歯科学会国際渉外委員長	仲野 和彦	P2
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科小児歯科学分野	有安 雄一	P3
広島大学大学院医系科学研究科小児歯科学	池田 舜也	P3
九州大学大学院歯学研究院口腔保健推進学講座小児口腔医学分野	石川 愛莉	P4
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学分野	小川 ひかり	P4
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	落合 まりん	P5
朝日大学歯学部口腔構造機能発育学講座小児歯科学分野	坂田 健輔	P5
朝日大学歯学部口腔構造機能発育学講座小児歯科学分野	堀 百合彩	P6
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学分野	松浦 沙久矢	P6
大阪大学大学院歯学研究科小児歯科学講座	山中 佑真	P7

LOVE, YOUR LIFE FRIENDS.



本事業は第34回TAPD大会（2025年6月7～8日、台中）において、筆頭発表者として発表を行う大学院生もしくは臨床研修開始後5年目までの会員に対して大会参加に対する諸費用を支援し、国際的な場での積極的な活動を奨励するために行われました。これは一昨年に、TAPDと締結しました学術協定に基づいた交流の一環でもあります。本事業は日本小児歯科学会国際渉外委員会経費とASUNARO基金（佐野正之理事にご寄付いただき創設）をもとに運営されています。佐野理事に心より感謝を申し上げます。



本報告書には、支援を受けて演題発表を行った若手小児歯科医の報告が記載されています。「発表内容の説明」に記録された内容からは、若手小児歯科医の症例報告、臨床研究あるいは基礎研究の高度な発表内容が窺い知れ、国際的な活動への熱い情熱が感じ取れます。「大会参加に関する感想」に記録された内容からは、学会場では発表、学会行事及び国際交流に真剣に取り組まれるとともに、学会場外では、今回の開催地がこれまでの台北とは違い台中であったことも相俟って、楽しいひと時を過ごされたことがわかります。いずれも、彼らの眼が広く海外を向いており、国際的な学会活動が以前にも増して活発になってきていることが感じ取れ、大変嬉しく思います。

第31回国際小児歯科学会（IAPD）大会が本事業を企画運営いただいている仲野和彦国際渉外委員長を大会長とし、2027年に大阪の地で開催されます。IAPD大会を成功させるためには、これからも日本の若手小児歯科医が国際舞台において大いに活躍され、2年後にさらなる高みに立たれることが不可欠です。その活動のエネルギー源として、支援事業は今後も継続して行って参りたいと考えております。

情熱のこもったプレゼンテーションに接して

公益社団法人日本小児歯科学会国際渉外委員長
仲野 和彦

「国際大会発表奨励事業2025」の1つとして、2025年6月7～8日に台中で開催されました第34回台湾小児歯科学会大会に参加する若手会員の支援を行うことができました。本事業は、日本小児歯科学会および同佐野正之理事の個人的なご寄付によって創設されたASUNARO基金によって実現したものであり、この場をお借りしまして改めて厚く感謝申し上げます。

本報告書を作成するにあたりまして、本事業において実際に支援を受けて大会で発表された9名の若手会員の先生方に、ご自身の発表内容の説明とフリータイムに台中で経験されたことの記載をお願いしました。



報告書をお読みいただきますと、どの発表も大変素晴らしく、各先生方が英語を使って一生懸命にプレゼンテーションされている姿を、頼もしく感じていただけることかと思えます。また、フリータイムには異文化に触れて楽しんでおられる様子も、伝わってくるかと思います。

この事業を始めて3年目になりますが、今回は一人ひとりの発表をじっくりと聞くことができました。その際、それぞれの発表に個性が出ていることを実感しました。学会発表は語学試験ではありませんので、英語をうまく話せるかどうかは、二の次でよいことだと思います。それよりも、自分の研究成果や取り組んできた症例について、「相手に聞いてもらいたい」という気持ちが前面に出ていることが重要だと思います。実際に、発表の進行役の先生方は、一生懸命それぞれの発表内容を理解しようとしていたと思います。

質の高い研究成果や興味深い症例報告に対しては、聞く方が一生懸命理解しようと努力してきます。英語がうまく話せるに越したことはないですが、それは物事を何とか伝えようとする情熱に勝ることはないと思います。今回の報告書を見ていただいた若手の先生方には、是非「次は自分がチャレンジしてみる！」という気持ちになっていただければ、大変うれしい限りです。今後も、この事業は継続していくと思いますので、その準備を進めておいてください。

発表内容の説明

鼻づまりがあると、噛む時の唇やあごの動きにどのような影響が出るかを、3次元動作解析装置で調べました。鼻クリップで鼻づまりの状態を作った上で、ガムを噛み、その際の唇やあごの動きを記録しました。その結果、鼻づまりの状態では、唇やあごの動きが不安定になり、特に上唇の動きが制限されることが分かりました。これらのことから、鼻呼吸は口の周りの筋肉が安定して動くために重要であり、鼻づまりを早期に診断・治療することが、噛む機能を改善するために大切であることを示しました。



ポスター発表の様子

大会参加に関する感想

このたび、台湾・台中市で開催された第34回台湾小児歯科学会（TAPD2025）に参加し、ポスター発表の機会をいただきました。国際色豊かな学会であり、台湾をはじめとするアジア各国の小児歯科医や研究者と交流できたことは、非常に刺激的であり、大きな学びとなりました。自身の研究発表では、興味深い質問や意見をいただき、研究の新たな展開や臨床応用の可能性について改めて考える契機となりました。中でも、口腔機能の発達と鼻呼吸の関連性についての話題は、海外でも関心が高いことを実感し、今後の研究の方向性に自信を持つことができました。



懇親会の様子

TAPD2025に参加して

発表内容の説明

小児において、歯周炎は稀ですが歯肉炎は頻繁に認められます。歯肉炎は口腔衛生状態が不十分であることが主な原因となりますが、小児の歯肉炎の状態を客観的に評価し、共有する手段はあまりありません。

今回我々は、PerioscreenとSalivary Multi Testという2つのスクリーニングテストを組み合わせることで、小児の歯肉炎を簡便に評価することのできる新しい方法を考案しました。



ポスター発表の様子

大会参加に関する感想

昨年の台北に引き続き、今年は台中で行われたTAPDに参加しました。昨年知り合った先生方が今年も覚えていて話しかけてきてくださったり、新しい出会いがあったりと、大変実りのある交流ができました。

ポスター発表では、Outstanding Poster Awardを受賞し、表彰していただきました。お互いに母国語ではない言語で発表して質問に答えることは、自分の知識や理解をいろいろな角度から試され、更に深めるとてもよい機会となりました。

今後もこういった発表の場に参加できるよう、日々の臨床や研究に励み、精進していきたいと思います。

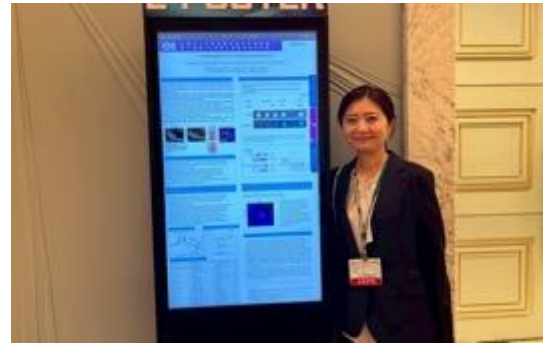


タピオカミルクティー発祥のお店にて

発表内容の説明

エナメル質形成不全は小児歯科においてよくみられる疾患で、大きな問題となっています。エナメル質形成に関わる遺伝子は数多く報告されていますが、それらの遺伝子によるエナメル質形成の制御機構は未だ明らかではありません。

今回の研究では内エナメル上皮（IEE）特異的に発現する新規遺伝子AmeloDとTCF4がIEE細胞において特異的に結合し、IEE細胞とエナメル芽細胞の分化に関連している可能性を示しました。



ポスター前にて

大会参加に関する感想

今回初めての海外、国際学会参加でした。英語での発表や質疑応答は緊張しましたが、とても有意義な経験となりました。より多くの知識を得るためには、語学力を磨かなければならないと痛感いたしました。

また、台湾の料理を満喫したり観光も行うことができ、充実した国際学会参加となりました。今回の経験を今後の診療や研究に活かしていきたいです。



台中で食べた小籠包

学会での発表を通じた国際的な交流の一步

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学分野
小川 ひかり

発表内容の説明

血液腫瘍の患者さんは治療として造血幹細胞移植を受けますが、その際移植前処置として抗がん剤治療や放射線療法を行います。その結果白血球数は生着までほぼゼロのため易感染状態となり、感染予防のため同時に抗菌薬の持続的投与を行います。これによる造血幹細胞移植後の多剤耐性菌の増加は問題となっています。本研究では造血幹細胞移植を受ける患児から齶蝕原生細菌である *Streptococcus mutans* を分離し、施行される治療が *S. mutans* の特性に対してどのような影響を与えるのかについて遺伝子の変化などを移植前後で比較し、検討を行いました。



必死に発表をしている姿

大会参加に関する感想

私は今回の台湾での学会参加を通して、人生で2回目となる海外渡航を経験しました。大人になってからも海外に行く機会がほとんどなかった私にとって、海外は未知で少し怖い存在でした。しかし、日本語とは異なる言語で海外の方々と交流することは、私にとってとても楽しく刺激的な経験となりました。もともと英語の勉強は趣味として続けてきましたが、日常生活の中で使う機会はあまりなかったのですが、今回の学会で実際に英語で発表を行い、自分の研究を海外の聴衆に伝えるという貴重な体験ができました。これまで国内中心の生活を送っていた私にとって、世界とつながることができたこの経験は、とても意義深いものでした。



発表を終え達成感を感じている姿

発表内容の説明

今回、7歳2か月女児の下顎右側第二大臼歯の歯嚢に異常拡大を認めた症例について発表を行いました。

歯嚢とは、正常な歯の成長過程において形成される結合組織であり、歯の萌出とともに消失します。一方で、含歯性嚢胞は放置すると成長を続け、著しく拡大すると歯胚の移動や顎骨の膨張を引き起こす可能性があります。そのため、早期の摘出または開窓術を検討することが重要です。本症例では、拡大した歯嚢の画像所見は含歯性嚢胞の所見と類似しており、病理組織学的検査を行うことにより確定診断に至りました。また、8歳1か月時に同症状の再発を認めたことから、歯嚢の異常拡大は再発の可能性があることを考慮し、歯が萌出するまでの定期的な観察を行うことが重要であることが示唆されました。



ポスター発表の様子

大会参加に関する感想

国際大会発表奨励事業により、海外での学会に参加させていただくのは3回目になります。このような機会をいただき大変感謝しております。台湾の多くの先生々が親しみをもって会話してくださり、台湾の小児歯科の診療の現状などを知ることができました。また、観光の際は日本でも有名なタピオカミルクティー専門店の創始店でのお食事や伝統的な台湾茶の体験といった貴重な経験ができ、強く印象に残りました。



伝統的な台湾茶を体験して

台湾小児歯科学会での発表を終えて朝日大学口腔構造機能発育学講座小児歯科学分野
坂田 健輔**発表内容の説明**

今回、台湾小児歯科学会での発表を行いました。発表の内容はSHARPで開発されているbitescanを使用し、成人女性の下顎運動の差について発表しました。バイトスキャンは従来の顎運動計測装置と比較し、より手軽に顎運動を計測できる機械です。また今回の研究で選定した被験者は成人でしたが、今後は小児の被験者を増やすことでより下顎運動の差や偏咀嚼についての知見が得られると考えております。



発表の様子

大会参加に関する感想

この度、国際大会発表奨励事業により、台中にて開催された、台湾小児歯科学会に参加させていただきました。国際学会での発表は昨年のタイに続き2回目でした。発表では英語でのコミュニケーション能力の差を痛感し、語学学習をより精進しようと考えました。

日本小児歯科学会のご支援のもと、このような機会を与えていただき感謝申し上げます。



クイズに正解して景品が当たりました！

発表内容の説明

唾液の分泌が減少すると、う蝕や歯の喪失といった問題が惹起され、結果として生活の質（QOL）の低下に繋がる可能性があります。しかし、現在唾液分泌の低下に対する根本的な治療法は確立されていません。

本研究では、ヒト乳歯歯髄細胞（HDDPC）から作成したiPS細胞（iPSCs）を応用し、唾液腺組織へと分化誘導する方法を新規に開発したので発表させていただきました。



ポスター発表時の写真

大会参加に関する感想

国際学会への参加は、私にとって初めての経験で、不安も多く抱えておりましたが、日本ではなかなかお会いすることができない先生方と出会う機会に恵まれ、大変貴重な経験となりました。英語での発表や質疑応答では苦労する場面も多く、英語力向上の必要性を強く実感いたしました。ガラディナーでは現地ならではの料理や華やかなパフォーマンスを楽しみながら、各国の先生方との交流を深め、それぞれの文化の違いを学ぶことができました。日本では得られない貴重な体験をさせていただけたことに感謝しております。



台中の街

第34回台湾小児歯科学会(TAPD)に参加して

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学分野
松浦 沙久矢

発表内容の説明

齲蝕の主要な病原細菌である *Streptococcus mutans* の重要な病原性のひとつは、バイオフィルムを形成する能力であり、その結果、歯の表面にプラークが形成されます。今までの研究より、バイオフィルムの形成のメカニズムにはATP結合カセット（ABC）トランスポーターが関係していると考えられていますが、このメカニズムの詳細については未だ不明です。

本研究では、バイオフィルム形成菌の遺伝子発現を調べ、ABC トランスポーター関連遺伝子である *SMU922* を抽出し、*SMU922* 欠失変異株を用いて生物学的機能を検討しました。



発表ポスターの前で

大会参加に関する感想

今回の学会は、私にとって2回目の海外での発表となりました。英語でのプレゼンテーションはやはり緊張しましたが、自分の研究を海外の方に知っていただく貴重な機会となり、非常に嬉しく感じました。また、今回はE-poster形式での発表だったため、これまでとは異なる発表スタイルに新鮮さを感じるとともに、今後はこういった方法がますます普及していくのだろうと実感しました。

台湾を訪れるのは今回が初めてで、不安もありましたが、現地の食事はとても美味しく、観光も楽しむことができ、充実した滞在になりました。今度はぜひ台北も訪れてみたいです。

今回の学会参加を通じて、新たな知見や刺激を得ることができました。今後も、より一層研究に励んでいきたいと思えます。



タピオカミルクティーの有名な春水堂にて

発表内容の説明

感染性心内膜炎は、心疾患を有する患者に発症する全身性の敗血症性疾患であり、侵襲的な治療を行う際は事前に抗菌薬を投与する必要があるとされています。日本では、日本循環器学会が提唱するガイドラインの作成に歯科医師が参加し、IE予防と歯科治療に関するガイドライン「JCS2017」が発表されました。今回の研究では、2010年から2024年までの間に大阪大学歯学部附属病院小児歯科にて抗菌薬が処方された175人の患者にを対象として、どのような心疾患を持っているか、どのような処置を行ったか、処方した抗菌薬の種類や量について調査しました。

今回の研究を通じて、当科では「JCS2017」に沿った方針が確立されていることが示唆されました



ポスター発表の様子

大会参加に関する感想

この度は国際学会発表奨励事業により、TAPDに参加する機会をいただきありがとうございました。海外での初めての学会発表となり、語学力をはじめ実力不足を痛感しましたが、とても有意義な経験ができたと思います。今後も、国際学会で発表する機会をいただけるように研究や臨床、語学力を磨いていきたいと思っています。

また、初めての台湾渡航で、本場の中華料理を楽しんだり、現地の文化を肌で触れることができ、台湾が大好きな国になりました。



観光で訪れた夜市にて



日本人参加者向けに
ウォーキングツアーを
開催していただきました

2026年に
第14回アジア小児歯科
学会大会が台湾で開催
される予定です

